

新型インフルエンザの予防・治療にトリアージの手法を

小野 幸夫議員

・質問 新型インフルエンザの流行、感染に備えて、大規模災害時に適用されるトリアージの手法を導入することについて見解を伺いたい。

・答弁 (市民福祉部長)

埼玉県では、新型インフルエンザの大流行を想定し、感染の拡大を最小限にとどめる

ための具体的な対応策を定めた行動計画を、全国に先駆けて策定をし、去る十一月二十八日に発表したところである。この行動計画によれば、県内で医療機関に受診する患者は、最大で約百四十万人、入院は最大約三万人、死者は、最大で約九千人に上ると試算

され、治療薬の確保だけでなく、トリアージの手法を取り入れた対応が必要不可欠なものとなってくる。

国及び県の行動計画のなか、このトリアージの手法が導入されており、新型インフルエンザが大流行した場合に治療薬を使用する優先順位については、第一番目は、新型インフルエンザ入院患者、二番目は、感染した医師や交通・通信・動力等のエネルギー産業、警察、消防、報道機関などに従事する者、三番

目は、心疾患など緊急性の高い患者、四番目に児童や高齢者、五番目として一般の外来患者の順に投与することが明記されている。

新型インフルエンザは、発生すれば大流行が予想されていることから、広域的な取り組みが重要であり、当市においても、これらのことを踏まえ、国や県の行動計画に併せて、行田保健所とともに関係機関、医療機関等と連携をとりながら、取り組んでいきたい。

その他の質問

・羽生市の人事施策について
・羽生市における介護予防事業について

＊トリアージとは
大規模災害時などで多数の負傷者が発生した場合に、限られた医療スタッフ、医療品のなかで、負傷者を重症度、緊急度などに分類し、治療や搬送の優先順位を付け、できるだけ多くの負傷者を救命する作業のことを言う。

都市計画道路南城沼線(愛宕町通り)整備事業について

齋藤 隆議員

・質問 平成十四年九月定例市議会において、南城沼線(愛宕町通り)の整備について、一般質問をしたが、事業のその後の進捗状況と今後のタイムスケジュールについて伺いたい。

・答弁 (都市整備部長)

都市計画道路南城沼線(愛

宕町通り)は、本町通りと東部藤井上組・下羽生線を結ぶ道路として、延長千八百八十メートル、幅員十二メートルの計画で昭和四十八年に都市計画が決定されており、現在までに二百四十メートルが整備されている。

長約二百メートルが未整備となつていますが、自転車や歩行者の安全確保、車両の円滑な交通を考えると早急な整備が必要であると認識している。現在までの取り組みとしては、事業化に向けた準備として、平成十六年度に道路改良事業基礎調査を実施している。

この調査の内容は、愛宕町通り区間について現況平面図の作成と用地補償費、工事費を含めた総事業費の算出を行ったもので、概算の総事業費は約十億円で、このうち補償費が約八億円と総事業費の相当な部分を占めている。

今後、補助申請を行うに当たり、道路設計、地元の合意形成、用地補償費を含む総事業費の把握、そして総事業費の約半額を占める市の負担を考慮した実施可能な財源計画を立てていく必要がある。

その他の質問

・介護保険事業について



城橋から見た愛宕町通り